

2011年サケ・マス類

単位：数量，1000トン、価格，円/kg

年	漁獲(生産)			加工	数量		東京			缶詰	消費支出		年末在庫	日露協定	アキ	北海道	本州
	サケ	マス	養ギン		輸入	輸出	生	冷	塩蔵		生	冷					
22	164	15	14.8	93.1	235.2	65.2	6.6	37.5	10.8	3.7	2,931	1,669	89.1	11.5	154.6	128	26.5
23	145	15	14.8		258.4	22.4	6.5	32.3	10.4		2,886	1,520	89.1	8.25	128.7	114	14.2
%	89	99	100	0	110	34	99	86	96	0	98	91	100	72	83	89	53

年	秋サケ	価格			東京			消費支出		
		北海道	本州	輸入	輸出	生	冷	塩蔵	生(円)	塩(円)
22	353	342	407	610	276	892	599	759	3,903	2,032
23	353	477	519	614	299	940	663	789	4,035	1,909
%	100	139	128	101	108	105	111	104	103	94

漁獲量

23年の北洋サケ・マス漁業は、ロシア200海里枠が中型船2,628トン（前年：5,840トン）、小型船2,715トン（前年：2,607トン）で中型船減少、小型船微増した。入漁料は中型・小型とも302円/kgで前年（304円/kg）を若干下回った。また、割当枠はベニ、トキ、マスとも減少した。またオホーツク建マスは不漁で引続き減少した。

日本200海里枠は2,694トンで前年（カラフトマス主体3,055トン）を下回った。

秋サケ沿岸漁獲量は、北海道3,427万尾（前年：3,655万尾）、本州472万尾（前年：803万尾）、トン数では北海道11.4万トン（前年：12.8万トン）、本州1.42万トン（前年：2.65万トン）であった。北海道、本州とも前年を引続き下回る低調さであった。

価格は、北海道での漁が漁期の遅れもあって当初から低調で、周年高値推移であった。したがって漁獲金額も再度500億円を突破した。また本州でも東日本震災の影響で網数の減少等もあって心配されたが、結果的にかなりの減少となり、価格も北海道同様高騰した。

魚体は、北海道3.34kg（前年：3.50kg）、本州3.01kg（前年：3.31kg）で、今年は北海道、本州とも前年よりやや小さく、小型化が目立った。

国内養殖銀ザケは、東日本大震災による被害を受けて皆無（前年：1.48万トン）であった。

輸出入

23年のサケ・マス類輸入量は、25.8万トンで前年（23.5万トン）を上回った。

本年、天然ではベニが前年を下回ったが、養殖物ではギンがやや増加、トラウトは微減であった。また、冷凍フィレーは引続き前年を上回った。その結果、総輸入量は、やや上回った。

天然物の国別輸入量は（全てのサケ・マス類、フィレーを除く）、米国1.6万トン（前年：2.2万トン）、カナダ1.7千トン（前年：6.3千トン）、ロシア2.8万トン（前年：2.5万トン）でロシアが増加したが、昨年「100年ぶり」の豊漁と言われたカナダが本年は大幅減少、米国もアラスカベニの低調さもあって減少した。

また、1999年初めて米国をぬいてトップにたったチリを始めノルウェー等各国からの養殖系サケの輸入は、既に天然ものを遥かに凌駕している流れは変わっていない。また、世界的にも堅調なEU、米国、中国等の需要もそれなりに堅調で、本年は原発事故の影響で買い負け、売り負けもみられた。本年の国別輸入量はチリ12.9万トンで前年（10.7万トン）を上回った。ノルウェーは2.6万トンで、前年（2.3万トン）を上回った。またニュージーランド（生・冷）、デンマーク（生・冷）、オーストラリア（生）等からの輸入は引続きみられているが、量的にはチリとノルウェーからが圧倒的に多いことに変わりはない。

輸入価格は、614円でベニ、養殖系も堅調ではほぼ前年（610円）並みであった。

また、近年まとまった輸出がみられていたアキサケは、国内生産の減産と原発事故の影響で中国への減少が顕著にみられ、1.5万トンと前年（6.5万トン）を大きく下回った。

輸出先は、依然中国が多いがそのシェアは68%に落ちた。続いてベトナム3,346トン（前年：2,542トン）、タイ3,324トン（前年：4,981トン）、台湾333トン（前年：551トン）、韓国72トン（前年：27トン）でベトナムの台頭が顕著であった。

また輸出価格は、国内価格の続騰で、前年（276円/kg）を上回る299円/kgであった。

総供給量

本年は秋サケ、建てマス、養殖ギンが減少した結果、総供給量は、前年並みの46.8万トンとなった。本年は東日本大震災の影響で、宮城県主体にサケ類の在庫喪失と秋サケの不漁、イクラ在庫の払底等もあって、サケ類の価格は堅調な推移を辿った。

	22年	23年	対比(%)
総供給量	462,600	468,450	101
沖獲漁獲量	11,500	8,250	72
秋サケ漁獲量	154,400	128,700	83
建マス漁獲量	10,500	7,500	71
ギンサケ漁獲量	14,800	0	0
輸入量	235,200	258,400	110
期首在庫量	101,400	88,000	87
輸出	65,200	22,400	34

消費地入荷量と価格

サケの東京消費地入荷量は、生6.5千トン（前年：6.6千トン）、冷3.2万トン（前年：3.8万トン）、塩1万トン（前年：1.1万トン）であった。

本年の入荷の特徴は、北海道・三陸の秋サケ漁の不振があったが、生鮮需要は依然堅調でほぼ前年並みの入荷であったが、冷凍原料は高かったことで減少、塩蔵もやや減少した。

平成年代に入って順調に伸び定着してきた生秋サケは、切り身、生フィレーでの販売が全国的に定着しているが、本年は北海道、本州とも引続き不漁であったが上述のように高値の割に生鮮需要は強く前年並みの入荷をみた。こうした結果は家計支出にも反映され生は数量・金額とも並み若しくは増加した。

価格は、生940円（前年：892円）、冷663円（前年：599円）、塩789円（前年：759円）で産地不漁等による原料価格の上昇を反映した価格の推移であった。